

表1 本県産業教育の歩み

13	15	20	25	30	35	40	45	5	10	15	2	5				
1913	1915	1920	1925	1930	1935	1940	1945	1950	1955	1960	1965	1970				
教育法(国県)	農業・水産業	工業	商業	家庭(中心)												
農業・水産業 福島県郡山農学校(13)	開成山農学校と改称(16) 開成山農学校(16)	福島県畜産学校(29)	本郷町立産業徒弟学校(27) 若松市立工業漆器器徒弟学校(31) 福島工業学校(35)	私立会津女子職業学校(27) 町立福島高等女子学校(30)校	福島補習学校 ・福島(30) ・郡山(34) ・須賀川(40)	私立福島商業学校(40)	市立福島商業学校(40) 市立若松商業学校(45) 平商業補修学校(2) 喜多方商業補修学校(3)校	町立郡山実業補習学校(7) 町立須賀川商業学校(8) 町立平商業学校(9) 町立喜多方商業学校(11)	市立白河商業学校(2) 郡山実践女子学校(12) (昭19県立へ移管)	会農・相農(10) 岩農・信夫農(11) 東白	相馬郡立農学校(40) 東白郡立農学校(40) 西白郡立農学校(41) 信夫郡立農学校(42) 岩瀬郡立農学校(42)	郡立西白河農学校、 郡立移管(2)	実業学校令の改正(9) 県立農学校規則の改正(11)	実業学校令(32) 実業教育国庫補助法(27)	農字通則発令(16) 商業学校通則(17) 東京職工学校規則(17) 中学令発令(19)	実業諸学校規程の改正(5)



松平県知事の会長式辞

(一)、開会のことば

(2) 記念講演会並びに記念祝賀会
 (3) 産業教育功労者の表彰
 (4) 記念誌の発行
 (5) 高等学校教育研究会各部会(農・水・工・商・家)が行う記念行事への助成

これに基づき実施状況を次に述べる。

一、記念式典並びに振興大会
 日時 昭和五十九年十一月二十八日 午後一時

会場 福島市「ホテル辰巳屋」
 参加者 福島県当局、県教育委員会、県内産業経済界、教育界、約三百名

式次第

(一) 君が代斉唱
 (二) 物故者に対する黙とう
 (三) 会長松平勇雄県知事式辞
 (四) 佐藤昌志県教育長あいさつ
 (五) 来賓祝辞
 (六) 添田増太郎県議会議長
 (七) 坪井孚夫県教育委員会委員長
 (八) 河原田穰福島市長
 (九) 宮坂義雄産振中央会専務理事
 (十) 大槻進県高等学校長協会会長
 (十一) 功労賞・感謝状贈呈
 (十二) 特別功労賞(故)油井賢太郎氏
 氏は本県産業経済の発展は産業教育の振興にあるとの強い信念から、産業経済界の有志とともに福島県産業教育振興会を設立し、自ら理事長として東奔西走、会員の増大と会の充実のために献身的に尽力され、中央会の常務理事としても活躍されたが、不幸にもこの式典をみることなく去る七月二十三日他界された。氏の永年にわたる産業教育振興のために尽力され、振興会充実強化に務められたご功績をたたえこの賞が贈られた。

(2) 感謝状
 産業教育振興会役員として、ご尽力いただいたかたがた、産業教育行政を担当されてご尽力いただいたかたがた、産業教育永年勤続教職員のかたがた計百四名に感謝状、記念品が贈られた。

(3) 産業教育功労者表彰状伝達
 (八)、受賞者謝辞
 (九)、閉式の辞

続いて記念講演として、株式会社東